

令和6年度

# ビオトープ管理士 資格試験

受験申込期間

令和6年6月1日(土) ~ 9月17日(火) 消印有効

受験手数料

1級 11,300円「1級の筆記試験合格者」の再受験は5,100円  
2級 7,200円

筆記試験会場

北海道、岩手県、宮城県、東京都、新潟県、石川県、長野県、愛知県  
大阪府、広島県、徳島県、福岡県、鹿児島県、沖縄県  
ほか、「サテライト会場」「キャンパス受験」

申込方法

公式サイトから「受験の手引き」をダウンロードし、お申込ください。  
郵便によるお取り寄せや、コンビニのeプリントサービス(有料)からも入手可能です。

筆記試験日

令和6年11月3日(日)

口述試験日

令和7年1月18日(土) 1級筆記試験合格者のみ  
(東京都内。ウェブ通話での試験可能)

試験科目

【筆記試験】生態学、ビオトープ論、環境関連法、計画部門または施工部門  
●1級 択一問題、記述問題、小論文 ●2級 択一問題、小論文  
【口述試験】筆記試験に合格した1級の受験者のみ

詳細は公式サイトをご覧ください。

## ビオトープ管理士の種類

### ビオトープ 計画管理士

まちづくりや地域づくり  
の視点から、自然生態系  
の保全・再生を行う

### ビオトープ 施工管理士

設計・施工の現場により  
近い視点から、自然生態  
系の保全・再生を行う

「ビオトープ管理士®」は、(公財)日本生態系協会の登録商標です

1級 ビオトープ 計画管理士	2級 ビオトープ 計画管理士	1級 ビオトープ 施工管理士	2級 ビオトープ 施工管理士
Senior Biotope Planners	Junior Biotope Planners	Senior Biotope Builders	Junior Biotope Builders
1級	2級	1級	2級
合格率 約31%	合格率 約55%	合格率 約31%	合格率 約55%
経験の豊富な事業の責任者レベル(受験資格あり)		基礎知識のある技術者レベル(どなたでも受験可能) 合格率は、令和5年度における実績です	



### 公益財団法人 日本生態系協会

みなさまからのご支援で、自然を守り再生するための活動を行っています。ご入会やご寄付、ボランティアへの参加をお願いします。

- 政策や地域づくり計画の提案
- 生物多様性に関する調査・研究
- ビオトープ管理士資格試験
- こども環境管理士資格試験
- 全国学校・園庭ビオトープコンクール
- 自然とのふれあいを大切にすドイツの園づくりツアー
- JHEP認証シリーズ
- 森の墓苑 … など

組織概要はwebで  
[www.ecosys.or.jp](http://www.ecosys.or.jp)

日々の活動は  
Facebookで



公益財団法人  
**日本生態系協会** ビオトープ管理士係

受付時間 月~金曜日 9:00 ~ 18:00 土曜日 9:00 ~ 15:00

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル Tel. 03-5954-7106 Fax. 03-5951-0246

www.biotop-kanrishi.org 公式サイトは  で検索

国土交通省登録資格  
環境省 環境人材認定事業

令和6年度

# ビオトープ管理士

## 資格試験

Biotope Planners and Builders

SDGsの  
目標達成  
30by30の  
推進に  
役立つ



ビオトープ管理士  
Biotope Planners and Builders

公益財団法人  
日本生態系協会

受験申込期間 [消印有効]

6月1日(土) ▶ 9月17日(火)

筆記試験日 11月3日(日)

## ビオトープ管理士とは

ビオトープ[BIOTOP]という言葉は、生きものの[BIO]と場所[TOP]からなる、地域の野生の生きものが生息・生育する空間という意味のドイツ語です。国際的に求められている持続可能な社会には、生きものやその生息できる環境を守り、増やすまちづくりが欠かせません。この資格はそのために必要な知識や技術の習得の証となり、環境教育の場などでも活かされています。

## SDGs、30by30 推進のために

ここ数年、企業の社会的な責任だけではなく、企業の信頼性や価値向上につながるSDGsへの取り組みが活発です。ビオトープ管理士は、SDGsで掲げられた17のゴールのうち、「11 住み続けられるまちづくりを」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさを守ろう」を達成するために有用な資格です。また、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復し、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標、30by30やネイチャーポジティブの活動にも有用です。

## 行政から信頼された資格

資格取得のためには、生きものに関する知識だけではなく、法律、技術、倫理観、評価力、応用力といった幅広い能力が必要となります。その幅広さと専門性・質の高さで信頼され、環境省や国土交通省、農林水産省などの中央省庁や地方自治体で、公的な入札条件や評価の対象として広く活用されています。

詳しくはサイトへ [www.biotope-kanrishi.org/biokan\\_02.htm](http://www.biotope-kanrishi.org/biokan_02.htm)

### 国土交通省登録資格

国土交通省登録資格制度は、国や地方公共団体等が発注する公共工事に関する調査(点検・診断を含む)及び設計等の業務において、民間団体等が運営する資格の活用を図るもの。令和4年度までに、366の資格が登録されている。

※1級ビオトープ施工管理と1級ビオトープ計画管理士が、計画業務に活用できる資格の建設環境部門に登録されている。

### 環境省 環境人材認定事業

民間における環境人材の円滑な活用等を目的として、民間事業者が行う環境保全に関する知識や指導に係る能力を有する者等の育成・認定、環境教育等に関する教材の開発等の事業を、国が登録する制度。

※級・部門を問わず、ビオトープ管理士は環境教育の分野に登録されている。



1級  
ビオトープ  
計画管理士

1級  
ビオトープ  
施工管理士

神奈川県立愛川ふれあいの村  
学芸員

吉田文雄 さん



1級  
ビオトープ  
計画管理士

株式会社協同測量社  
環境部

竹内美晴 さん



1級  
ビオトープ  
施工管理士

株式会社加藤建設  
経営企画室 自然環境課

久坂 耕 さん



2級  
ビオトープ  
施工管理士

有限会社フローラ

小田川辰夫 さん

## 定年後の活動を豊かに

自然観察会や地域の自然環境調査をしていましたが、目的がはっきりと見えず、子どもたちとの授業や自然観察会での会話は単なる自然知識の受け売りになっていました。漠然と「自然を知り自然を尊び自然を大切に」と唱えていましたが、しっかりした考え方が必要だと感じていた折、尊敬する人からビオトープ管理士の話聞き、定年後、今更勉強なんてとても思っていたのですが、楽しく学べ、今までと違った深みのある自然観が身に付きました。

そのおかげで今まで培った知識が幅広く活かされ、自信をもって活動できるようになりました。これからはビオトープ管理士行動規範に則り、ビオトープの保護・保全・復元・創出に努めたいと思います。

## 自分の引き出しを増やすために

私が「ビオトープ管理士」と出会ったのは、新しい資格ができるという新聞記事でした。建設コンサルタントで環境調査を生業としている私にとって、「ビオトープ管理士」の資格は名刺に書ける貴重な資格でした。現在はビオトープ管理士の資格取得を目指す学生さんたちのお手伝いをする機会にも恵まれていますが、合格することが目的ではなく、勉強を通じて自分の中に生物多様性や生きものとのつながりという引き出しを作ってもらえれば、いつかその引き出しに新しいデータを入れていくことが出来るのでは、と思っています。

ビオトープの知識を持った技術者の卵たちが社会で活躍する日を夢見て、私はせっせと種をまいていきたいと思っています。

## 自然に優しい工事をスタンダードに！

建設業は自然環境にとっても近いフィールドで業務を行っています。だからこそ自然環境に対する正しい知識が必要だと感じビオトープ管理士の資格を取得しました。資格取得に向けて学ぶ過程で工事という目線から見る自然環境への意識が大きく変わり、守ることができる自然がたくさんあることに気づきました。

弊社では建設業による自然環境への配慮を会社全体での取組んでおり、現在209名のビオトープ管理士が在籍、工事現場の自然環境を守る活動を実践しています。

「自然との共生」をスローガンに、自然環境に優しい工事を推進していきたいと思っています。

## 小笠原の貴重な自然を守る

造園施工管理士の資格を取得してから主に植栽工事を中心に仕事をしてきましたが、世界自然遺産である小笠原での外来種駆除作業に従事することになり、知識向上のため適切な資格をと探している折、このビオトープ管理士の資格を知りました。小笠原諸島在住ということもありなかなか受験予定が立てられませんが、サテライト会場の制度を使えば地元でも受験出来ることを知り、会社の仲間たちに呼びかけて受験しました。

現在も小笠原諸島兄弟島を中心に外来種駆除の仕事をしておりませんが、生態系保全の基礎を学び資格を得たことは、生態系保全事業を進めていく上で私の大きな自信となりました。